



上手な運転のしかた



上手な運転とは、何よりもまず安全に車を運転することです。決して高度の技術を要する運転を言うわけではありません。安全運転とは車の性能を十分認識し、あなたの今までの運転経験を生かして

法令にしたがって秩序よく、最も有効的に車をお使いいただくことです。それが結局は事故防止に役立つと共に車を長持ちさせることにもなります。安全運転のために、この項目を役立ててください。



ブレーキ、クラッチの 使いかた

■ブレーキ

ブレーキ・ペダルは、2・3度に渡って踏むとより安定した制動が得られます。また、早目に後続車に知らせることもなります。

長い下り坂では、ブレーキを踏み続けるのをやめエンジン・ブレーキを活用しましょう。ブレーキを踏み続けると、ペーパー・ロックや、フェードを起こし、ブレーキが効かなくなることがあります。ペーパー・ロックとは、ブレーキ・フルードが加熱されて、沸騰し泡が発生すると、ブレーキペダルを踏み込んでも、気泡を圧縮するだけで、ブレーキ力とはならない現象をいいます。

フェードとは、ブレーキの摩擦面が、加熱されると摩擦が急激に低下し、摩擦力が減るので同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが、悪くなる現象をいいます。

■クラッチ

ギヤ・シフトはクラッチ・ペダルを十分に踏んでから行ないましょう。

走行中、クラッチ・ペダルに足を乗せないようにしましょう。クラッチの不具合の原因になります。

エンジンを長持ちさせる ために

- ★定期点検整備は定められた通りおこないまし
う。
- ★無理な運転は避けましょう。特に新車から5,000
kmぐらいまでは控え目な運転をしてください。
- ★エンジンをオーバーランさせないために、各シ
フト・レバーの位置での速度は下表の数値を越
えないように運転してください。

エンジン 型 式	セ ダ ン 6 R			セ ・ ダ ン 18 R				M		M B, M - B R			
	3段 ミッション	4段 ミッション	3速 オートマチック	3段 ミッション	4段 ミッション	GSL車	オートマチック・ トランスミッション	オートマチック・ トランスミッション (GSL車)	4段 ミッション	3速 オートマチック	4段 ミッション	5段 ミッション	3速 オートマチック
1 速	45	40	55	45	45	50	65	70	45	60	45	50	65
2 速	85	65	90	95	75	85	105	115	75	105	85	80	105
3 速	/	105	/	/	115	125	/	/	110	/	125	115	/
4 速	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	165	/

エンジン 型 式	ワ ゴ ン 6 R			ワ ゴ ン 18 R		
	3段 ミッション	4段 ミッション	オートマチック・ トランスミッション	3段 ミッション	4段 ミッション	オートマチック・ トランスミッション
1 速	40	35	50	45	40	60
2 速	80	65	85	90	70	95
3 速	/	95	/	/	105	/

経済的な運転

- ★エンジンが冷えていると熱効率が悪いので十分
ウォーミング・アップをしましょう。
- ★エンジン回転数と車速をマッチさせたギヤ・シ
フトをしましょう。
(除くオートマチック・トランスミッション車)
- ★急停車、急発進はできるだけ避けましょう。
- ★停車中の半クラッチは避けましょう。
- ★不必要にスピードの上げ下げをしないようにし
できるだけ一定の速度で走りましょう。
- ★不必要な高速運転はやめましょう。
- ★エンジン性能にあったガソリンを入れましょう。

悪路走行

- ★ぬかるみ・砂地・ジャリ道ではスピードを落し
不必要な変速、急ハンドルは極力しないように
しましょう。
- ★凸凹道で凸凹を避けられないときは片輪だけを
凸部にのせるようにして走行しましょう。
- ★悪路走行後は、走行装置の点検をしましょう。

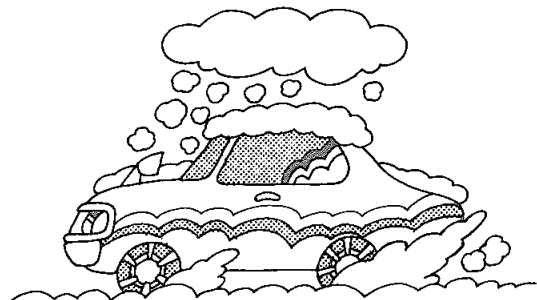


悪天候時の運転

《霧の日の運転》

- ★スモール・ランプまたは、ロー・ビームを点灯して走行しましょう。フォグ・ランプ付車は、フォグ・ランプを点灯しましょう。
- ★先行車のある場合はその車のテール・ランプを目印に走行しましょう。

《雪路・凍結路運転》



- ★道路の状況に応じてスノー・タイヤやタイヤ・チェーンなどを装着して走行しましょう。
- ★路面がすべりやすいのでスピードの出しすぎや急加速、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。タイヤの接地力が小さくなるためスリップを、起こしやすくなります。

★注意

地域によっては、条例等で雪路走行の場合は、タイヤ・チェーンまたは、スノー・タイヤ使用が義務づけられている場合がありますので、シーズン前に準備をしましょう。

坂路走行

- ★登り坂ではノッキングさせないように早目にギヤ・シフトをしましょう。
- ★下り坂ではエンジン・ブレーキを活用しましょう。適当なシフト・ダウンをして十分にスピードをコントロールしてください。

高速道路での運転

《基礎知識》

普通走行では、ほとんど支障のないようなことでも、高速走行では大きな故障や事故の直接の原因となることがありますので、次のことを心掛けてください。

- ★仕業点検は完全に行ないましょう。特にタイヤの点検は念入りに。詳しくは「お出かけ前の点検」の項を参照
- ★急ハンドルはきらないこと。ハンドルは両手でしっかり持っていること。(片手ハンドルはしないようにしましょう。)
- ★急ブレーキはかけないこと。
- ★車間距離は十分保つこと。走行速度と同じ数値の距離(例えば100km/hのとき100m以上)を保つのが原則です。
- ★路面がぬれている場合はタイヤが滑りやすいのでスピードを落としましょう。
- ★風の強いときはスピードを落としましょう。

《本線への進入》

- ★ターン・シグナルを早目に出しましょう。
- ★加速車線で十分加速し後方を十分に確認してはいりましょう。

《本線では》

- ★カーブは速度を落としてまがりましょう。
- ★追い越しをするときは、車の流れを確認しましょう。
- ★車線変更合図は早目にしましょう。
- ★トンネル内は必ずヘッド・ランプを点灯しましょう。
- ★進入車には走行車線をゆずりましょう。

《本線から出るときは》

- ★出口を確かめ、ターン・シグナルを出しましょう。出口を行きすぎても、もどることはできません。
- ★ランプ・ウェイでは速度感覚が違いますからスピード・メーターを見て指示速度に減速しましょう。

《高速道路で、故障と事故が起きた場合は》

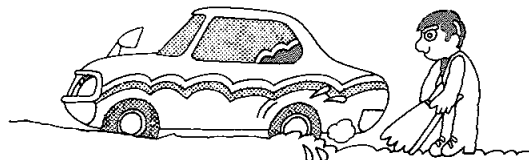
- ★ハザード・ウォーニング・ランプを点滅させたりエマー・フラッグ(赤旗)で後続車に緊急を知らせます。
- ★故障、ガス欠、事故は非常電話で通報しましょう。
- ★電話のない所では、巡回サービスカーがくるまで待ちましょう。
- ★けん引は勝手にしないようにしましょう。高速道路ではたとえ友人の車がいっても勝手にけん引することは禁じられています。

★トンネル内では、たとえ簡単な修理でも車外作業は行なわないようにしましょう。

緊急処置

■ぬかるみ、砂地に車がいったとき

むやみに、アクセルをふかして車輪を空転させないでください。



タイヤの下にわら、むしろ、板、小枝などをしいて車を前後にゆさぶり、反動で脱出しましょう。またタイヤの空気を抜いて路面との接地力をよくすると抜け出すことができます。そのあとですぐ空気を入れることを忘れないようにしましょう。砂地では、タイヤの下に水をまくと抜け出すこともできます。

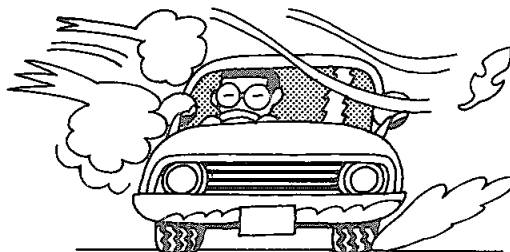
■雪路・凍結路で車が横すべりを始めたとき

急ブレーキを踏むと横すべりがひどくなりますのでエンジン・ブレーキを使ってください。

横すべりを始めた方向へハンドルをきって進路をたて直しましょう。

■高速走行中、横風をうけたとき

ハンドルをしっかりともち急ブレーキは踏まないようにしましょう。スピードも落してください。高速道路を走行するときは、風の強さに気をつけましょう。



■降雨時、水たまり走行後ブレーキが効かなくなったとき

控え目のスピードで走行し、ときどきブレーキ・ペダルを踏みながらブレーキ内に入った水を早く乾燥させます。

■雨の日のブレーキは

タイヤがすべりやすくなりますから早目に踏みましょう。



■ガソリンを吸いこみすぎのとき

しばらく時間をおいてかけ直します。あるいは、アクセル・ペダルをいっぱい踏みこんだままスターターをまわします。ただし、連続で15秒以上はまわさないでください。

■バッテリーあがりのとき

マニュアル・トランスミッション車

エンジン・スイッチをONにしてギヤをセカンドまたはサードに入れクラッチを踏んだ状態で車を押すか、けん引してもらいます。

スピードが10km/hくらいになったとき、クラッチをゆっくり離します。エンジンがかかったらすぐクラッチを踏み、ギヤをニュートラルにします。

オートマチック・トランスミッション車

〈除くRX10-ND型車〉

エンジン・スイッチをONにしてコントロール・レバーを①に入れ、車をけん引してもらいます。スピードが30~40km/hでエンジンがかかります。エンジンがかかったら、レバーを②に入れます。

★注意

1. けん引によるエンジン始動後はけん引車に衝突しないように特に気をつけてください。
2. RX10-ND型車は、けん引して始動することはできませんので、バッテリーをかえて始動してください。

以上の処置でなおらない場合、異音、異臭のする場合はサービス工場で点検を受けましょう。